



## 早稲田大学との「スマートスタジアム構想」に関する共同研究開始について

株式会社みずほ銀行（頭取：藤原 弘治、以下「みずほ銀行」）は、学校法人早稲田大学（総長：田中 愛治、以下「早稲田大学」）と「スマートスタジアム構想（※1）」に関する共同研究を開始し、株式会社 Blue Lab（代表取締役社長：向井英伸、以下「Blue Lab」）も参加します。本共同研究は、早稲田大学と2018年7月13日に締結した、データサイエンス活用の視野拡大に向けた研究・教育に関わる学術交流協定書（※2）に基づくものです。

### ＜今回の共同研究の概要＞

- ・ 目的：スタジアム来場者に対するサービス向上等を狙いとしたマーケティング高度化およびデータの利活用等
- ・ 研究題材：早稲田大学ラグビー蹴球部
- ・ 実施内容：スポーツ観戦アプリサービスの構築、データ収集・利活用方法の検証

〈みずほ〉では、これまで、IT 技術等を活用した取り組みを推進するため、先進的な IT 技術を保有する企業との連携を通じ、業界の垣根を超えたオープンイノベーションに取り組んできました。

そのような状況の中、本共同研究では〈みずほ〉および Blue Lab が構築を進めてきたスマートスタジアム構想における「データ利活用のためのプラットフォーム」を用いたスタジアム来場者情報を利活用する仕組みの一つとして、スポーツ観戦アプリサービスを通してデータの収集・利活用方法の検証を目的としています。

具体的には、早稲田大学と連携し、早稲田大学ラグビー蹴球部を研究題材としたスタジアム来場者に対するサービス向上等を狙いとしたマーケティングおよびデータの利活用等のため、スポーツ観戦アプリサービスの構築を行い、そこから得られたデータの利活用に向けた課題の整理と評価を行います。

また、サービス構築とデータの利活用に向けた課題の整理と評価については、早稲田大学の学生と共にワークショップや調査を行い、協定書に基づいたデータサイエンス教育の一環としても取り組みます。

〈みずほ〉、Blue Lab は、今回の取り組みを契機として、データサイエンス活用の裾野拡大に向け、データの収集手段や利活用方法の研究および教育面の活用を目指します。さらに、我が国におけるデータサイエンス分野の研究力強化と人材育成に取り組み、第4次産業革命や Society 5.0（※3）の実現に貢献していきます。

※1 スマートスタジアム構想

先端技術を活用することで、スタジアムと観客のつながりを構築し、新しい観戦体験を創出する構想。例えば、座席からの食べ物注文やキャッシュレス決済、観客のスマホへの映像配信などがあげられます。

※2 データサイエンス活用の裾野拡大に向けた研究・教育に関わる学術交流協定書

〈ご参考〉[https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20180713release\\_jp.pdf](https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20180713release_jp.pdf)

※3 Society 5.0

革新的な科学技術で経済発展と社会的課題の解決を両立する、わが国が掲げる新たな社会像。

以上